



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 ☎:059-331-1670
 fax:059-332-0733

掲示板法話

言葉は自分を変え 相手を変える 嬉しい言葉を交わそう

「借りてきたはかりの上に 自分の幸せを乗せている あなたが僕には悲しい 知ったかぶりをした顔の裏で いったって他人を責めていてあなたが僕には悲しい たらいで生まれて桶の中まで 何も分らず生きていく 時の流れが悲しい 暇つぶし以上に何をしていますか 暇つぶし以上に何をしていますか。この詩は小椋佳さんの歌「暇つぶし以上に」という歌詞の一部です。

「暇つぶし以上に何をしていますか?」と誰かに言われたら、皆さん怒って反論するでしょう。仕事をしています。家事だって立派な仕事よ、子守もそう。そんなことあなたに言われたくないわ、等々。でも、「借りてきたはかり」とは何でしょう? 「世間が」とか、「こんな時代だから」とか言い訳する私の基準(生きるモノサシ)が借り物であり、仮のものだというのはかなり当たっている(図星だ!)と思います。が如何でしょうか。「知ったかぶりをした顔」で「好きだ、嫌いだ、損した、得した」、「よい人、悪い人」



などと分別し、ヒトを裁いて、何も分らず生きていく。淋しく、空しく、当てもなく時が過ぎていく...。そんな「あなたが僕には悲しい」と慈しみの心を寄せてくれる「僕」とは誰でしょうか? 小椋佳さんに確かめた訳ではありませんが、「何も分らず生きていく」我々の姿を悲しんで下さるのは、仏さま以外にないと言ってもいいのではないかと思うのです。が如何でしょうか?

親鸞さまは「本願力に遇ひぬれば空しく過ぐる人ぞなき 功德の宝海みちみちて煩惱の濁水へだてなし」(高僧和讃)と詠まれます。だから、本願力回向のお念仏に遇うて下さいよ、とおっしゃいます。「言葉の海」に生きる私たちは言葉によって人間関係が結ばれ、逆に言葉の隔てにより闇の世界に沈んでしまう危なさがあります。嘘、悪口、おべっか、二枚舌(本音と建前の使い分け)等、お育てがなければ言葉によって傷つけ合い、言葉の殺人さえ日常茶飯事の昨今ですね。そんな現代の闇を癒す「嬉しい言葉

☆行事ご案内

春季永代経法要

3月17日(土) 午後1時半 夜の法座なし

18日(日) 午後1時半

講師: 加藤学先生(桑名)

※お経開き(招待者) 3月17日(土) 午前10時半より

◇一縁会テレホン法話 Ⅱ 059-354-1454 三重組有志の僧侶・坊守、若院が週替わりで3分法話、新刊法話集「参らせてもらうでね」(自照社刊)発売中

◇『三重組十三日講』3月13日午前・午後、高角・円勝寺様で

◇三全仏教婦人会総会 3月20日夜7時光念寺様で

◇絵手紙教室 3月13日(火)午前10時 30回目川崎光子先生 庫裏食堂で。作品は小杉郵便局にも展示

◇キッズサンガ3月3日(土)午後4時。鐘撞きは毎日夕方5時、年中無休。卒業式とお抹茶作法も練習。子供に心の教育を!

◇初参りの赤ちゃん幼児募集! 4月21日(土)午後1時善正寺 三全仏婦主催、参加費千円、地域で子供の誕生と成長を祝福しましょう! お知り合いの方もお誘い下さい。誰でもOK

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設丸9年7か月で26万訪問、一日平均80人程、悩み相談、大歓迎! 即返信

◇新納骨堂: 後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

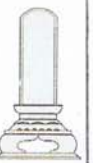
の歌」(NHKアナウンサー・村上信夫さん)をご紹介します。
 「おはよう」って言えば心の窓が開く。「有難う」って言えば心がニコニコする。「頂きます」って言えば心がつながっていく。「おかげさま」って言えば心がおじぎりする。「よかったね」って言えば心が一つになる。「大好き」って言えば心がうきうきする。「大丈夫」って言えば心が柔らかくなる。「お休み」って言えば心がまあるくなる。言葉は自分自身を変え、相手を変え、社会を変える。言葉の仏さまが南無阿彌陀仏。努めて「嬉しい言葉」を交わりたいですね。

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

法名の問い合わせ



先日関東の女性から電話があった。「4年前に叔母の葬儀をお願いした者ですが法名を教えてください」

「住職は夜まで外出中です。帰宅したら調べますので再度お電話下さい」

過去帳を取り出す前に、私の連用日記を調べた。丁度4年前に老人施設で死去した女性の名前と年齢が判明。依頼してきた葬儀屋さんの店先で2名の

参列。遺族が葬儀後のお勤めを辞退されたので連絡先も記入してなかった。でも何故急に故人の法名を知りたくなつたのだろうか？電話主によると、

「位牌は親戚が持つて行った。自分は紙切れに書いたがそれを紛失。法名を知りたい理由は詳しくは言えない。葬儀の時に貰った善正寺だよりを見て電話をかけている」との返答。

これ以上は追及できないので、住職は記憶の糸を辿りながら対応した。

関東の女性とは別に、地元に住む60代の独居男性も法名を尋ねてきた。

「30年前に死んだ姉の位牌を実の娘が持つて行った。法名が知りたい」

男性は一度も寺の門をくぐつた経験は無く話をするのも初めてで驚いた。

何故急に相次いで法名を知りたい人が増えているのだろうか？

「墓じまい」とか「散骨」がマスコミを賑わす時代、むしろ法名の問い合わせは逆方向ではないのか？

今までほったらかしにしておいて、急

に調べる行動が不可解でならない。多分問い合わせをしてきた人は自分の身に不都合なことが起こり、誰か

(拜み屋)に相談した結果だろう。「あなたの不幸の原因は、あなたが身内(先祖)の供養をきちんとしてないから、祟っているのです」と言われたのではないだろうか？

もし私が相談を受けるならば、次のように応えたい。

「仏様は決してあなたに祟りなどしません。物言わぬ故人やご先祖の所為でもありません。不幸の原因を見つけるとしたら、それはあなた自身の中にあります。仏様の光に照らしてあなたの生き方を反省するならば、苦勞を乗り越える道が開けます。亡き人をご縁に仏様の声に耳を傾けましょう！」

カンパありがとう！
服部様(名古屋)、他よりお志、切手等頂戴。有難うございました。

寄稿 四日市市・釋清風

- 丸き背に犬寄り添えり枯野かな
- 足跡も消えにし夜明け深雪道
- 伊勢の海眺むる冬野行幸坂
- 冬晴れや万葉人の夢の跡
- 春立つや我も光のうちにある

☆若院夫婦の『育自な毎日』その39
インフルエンザが大流行する中、我が家の長男(5)も幼稚園で感染。長女(3)や他の家族にも伝染しないかと心配しましたが、杞憂に終わりました。インフルエンザの出席停止が明けて、幼稚園のお遊戯会がありました。長男にとっては最後の遊戯会。大きく成長した姿を期待して、長男がくじで引き当てた、最前列の席で観ることが出来ました。

涙が溢れるような曲と共に、年長児一人一人の顔写真が登場する映像で幕開けです。目頭を押さえる親が続出する心憎い演出(笑)。ちなみに私は我が子の写真がいつ登場するかドキドキで、全然涙が出ませんでした。

いよいよ年長組は歌と器楽演奏でスタートです。英語の歌、ピアノや打楽器による演奏がありました。冬休み毎日練習したおかげで大成功！その後は年中、年少組へと続き、年長との体格の違いや演奏の技術の差など、目を見張る成長ぶりに驚きました。

第2部では年長は日舞を披露。出番の前に、親はリハーサル室で着物を着せる仕事があります。準備の大荷物一杯。おまけに女の子は髪を結い、飾り付けてお姫様よう。長男は黒の着物に金の袴で、なかなか凛々しい姿になりました。日舞は「牛若丸」を披露。傘を持ち、♪京の五条の橋の上♪の音楽に合わせて見事に舞いました。

思えば入園当初は、泣いて登園を嫌

がっていたのが嘘のようです。現在はつらつとした姿や3年間の成長を見て目頭が熱くなりました。(若坊守) **お知らせ&募集**

◇初参式の赤ちゃん幼稚園大募集！
4月21日(土)1時、三全仏婦主催。会費千円、地域全体で子供の健やかな成長をお祝いしましょう。お知り合いの方も誘い下さい。

◇新刊本・一縁会テレホン法話集『参らせてもらうでね』(自照社刊・800円)発売中、善正寺からは住職・坊守・若院の3名が掲載。

◇「三重組十三日講」3月13日午前、午後(高角・円勝寺様にて)

◇「三全仏教婦人会総会」3月20日夜7時(光念寺様にて)

善正寺・平成30年度前半の主な行事
※3月17(土)・18(日)「春季永代経」午後1時半(加藤学先生、桑名)

※4月21日(土)午後1時三全仏婦主催「初参式&降誕会」(加藤幸子先生)

※5月20日(日)午前「善正寺総会」
※6月16日(土)午前・午後「三重組仏教講習会」善正寺にて
※8月15(水)午前8時半「孟蘭盆会(うらぼんえ)法要」善正寺本堂
※8月18(土)19(日)「秋季永代経」加藤正人先生、桑名



☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」291号をお届けします。◇極寒の冬、北陸豪雪の路上落命の人まであり、厳しい自然環境を痛感。だが温茶配る児童もあり。唯合掌。

今年の芥川賞を受賞した^らおらおらでひとりいぐも^ら若竹牛佐子著は、一人暮らしの四代女性の心情が赤裸々に描かれています。若竹さんの実話を元に、東北弁の会話が温かみを帯び共感します。故郷を飛び出し、都会で働き、同郷の男性と結婚、二児を育て、50代で夫の急死に直面。疎遠に暮らした息子と娘。老後は住み慣れた新興住宅地に独り考える小説です。「亭主が死んで初めて目に見えない世界があつて欲しい」と切実に思った。それまでは現実の世界に充足してそんなことを考えもしなかった。むしろ旧弊と軽蔑していた。自分が培ったものが薄っぺらに思える。亡き亭主が開いてくれた扉。耐え難く苦しいことが起つても、その苦しみは自分に必要であった。それに意味を見出せば我慢もできる。夫とおらはいつまでも繋がっている。夫がくれた独りの時間。寂しさは道連れだが、おらはおらでいぐもし。おそらく主人公に共感する高齢者は多いと思います。岡本かの子の歌に「遺産なき母が唯一のものとして残してゆく死を子らよ受け取れ」。親は死しても尚、生き様を通して子を尊ぶきます。死んだら終いではありませんが、人間が目に見える世界は、わずか5%。残る95%は心で受け取る気が付きます。それを仏教では「仏様の回向」と言います。3月、永代経法要(3月18日)で、亡き人をご縁に「仏様の回向」を受け取りましょう。あなたのご参詣を心よりお待ち申し上げます。実さ感しき折、ご自愛下さい。合掌

平成三十年三月

善正寺坊守持